

自分自身のために家族のために 社会のために問い、そして考えよう

西 英子 熊本県立大学環境共生学部居住環境学科准教授

初めての海外・ドイツ訪問で 芽生えた研究者としての自覚

将来の職業としての“大学教員(研究者)”は、比較的早い段階で考えていました。大学へは「関心のあるテーマがある大学院へ移動しよう」と企みながら入学。学部から大学院への環境を変えることのストレスはあったものの、おかげで全国各地出身の友人がたくさんでき、気候風土の違いや人の気質の多様性を知ることができました。23歳の時に、指導教官らの研究グループと環境政策、都市づくり視察のために、初めての外国、ドイツに訪問。目の前の世界が一気に広がり、研究者としての自覚が芽生えました。

現在は、都市計画を軸としながら「まちづくり」の実践研究に携わっています。都市計画・まちづくりは、実際のまちの現場を見たり、地域の方々と会って話したりといったフィールドワークの作業がたくさんあります。人との出会いや、議論によって考えが深まり広がっていくことがなによりも楽しいです。また、行政が設置する各種委員会に学識者として参加し、意見を出し合い議論しています。このよう



下通り商店街「子ども連れのお母さんにやさしいまち」への提案のため「お茶会」を開催

に、実際の計画や政策に反映されていくことにも、責任とやり甲斐を感じます。

流動的に変化する家族、地域。 支え合うにはどうすれば良いか

私生活では、夫が仕事の都合で東京在住のため別居婚。平日は息子ふたりと母子生活をしています。家事育児をこなしながら、仕事を抱えるのはとても大変。そこで試行錯誤の結果、「子どもと一緒に9時に寝る!」という生活スタイルに変更。おかげで時間の管理が上手になり、仕事の質はむしろ上がったかもしれません。

女性が働く過程で、結婚や出産はもちろん「共働きで、家族が別々に住む」という形もあり得ます。私の研究のなかでも「**家族は必ずしもひとつ屋根の下ではない場合がある**」という「**2地域居住**」のテーマも掲げています。家族だけでなく、他人同士が支え合う、地域内でつながる可能性もこれからの時代には必要です。専門職やキャリアを重視する女性が生きやすい世の中づくりも考えていきたいと思っています。



動物園大好きな子どもたち。保育園も自宅も動物園の近くで「庭」みたいです



Eiko NISHI

農学部 修士課程
博士課程
海外大学留学
行政調査研究員
大学教員

ずっと働き続ける！
それを考えて進路を決めました

One day

4:00 起床 仕事、雑事(自分の時間)
6:00 子どもたち起床
朝食、保育園へ送り、家事
9:00 大学へ 講義、会議など
14:00 学外での仕事
(市役所での会議や研究調査など)
17:30 帰宅→家事・夕食・入浴
21:00 絵本を読みながら就寝

◎座右の銘
いつも喜んでいなさい
◎リフレッシュ方法
雑誌を読む、ストレッチ

profile

にしえいこ / 2002年奈良女子大学大学院博士課程修了後、約2年間デンマークコペンハーゲン大学に留学。デンマークの豊かさに、「自立した個人が、お互いに繋がる仕組み」を感じる。2005年から熊本県立大学において、都市計画を軸としながらまちづくりの実践研究に携わる。「まちづくり=ひとづくり」の視点から、特に近年のキーワードは、合意形成、教育、コミュニケーション。

アンケート
より

- そもそも女性研究者の数が少ないので、そこから増やす必要があると思う
- 教授という地位に対してメリットを感じないので昇進を望まない
- 結婚や子育てがあることから教授を目標と考えていない